

Oracle Application Integration  
Architecture (アプリケーション統合  
アーキテクチャ) による、  
複数のアプリケーションにまたがる  
シームレスなビジネス・プロセスの  
実現

オラクル・ホワイトペーパー  
2007年4月

**注意:**

以下の内容は、オラクル製品の一般的な傾向の概観を示すものであり、情報提供のみを目的としているため、いかなる契約上の義務も発生しません。オラクルはいかなる資料、コード、機能についても提供する責任を負いません。これらの情報を購買意思決定の根拠とはしないでください。オラクル製品における特長や機能の開発、発表、時期の判断の一切は、継続してオラクルに委ねられているものとします。

# Oracle Application Integration Architecture (アプリケーション統合アーキテクチャ) による、複数のアプリケーションにまたがるシームレスなビジネス・プロセスの実現

## 要旨

このホワイトペーパーでは、オラクルのアプリケーション統合アーキテクチャにより、複数のアプリケーションにまたがるビジネス・プロセスを今日どのように実現できるかについて説明します。オラクルが提供する業界トップのミドルウェアと最高クラスのアプリケーションを組み合わせ使用し、従来の業務別サイロの枠を越えたビジネス・プロセスを実現することで、コスト効率の向上およびサイクルタイムの短縮が可能になります。オラクルは、事前構築済の統合パッケージを提供し、これらの統合に対して継続的なサポートや機能強化を図ることにより、業界のベスト・プラクティスとしての業務統合・最適化プロセスを、短時間で、簡単かつ低コストで導入および展開できるよう支援します。

## はじめに

このホワイトペーパーでは、オラクルのアプリケーション統合アーキテクチャの必要性を説明します。Oracle ApplicationsとOracle Fusion Middlewareを組み合わせることによって、適応力ある業種別プロセスを今日どのように実現できるかについて説明します。また、アプリケーション統合アーキテクチャの内容、このアーキテクチャを使用して最良のアプリケーション統合を実現する方法、およびFusion Applicationsでアプリケーション統合アーキテクチャを活用する方法についても説明します。

## ビジネスとITの間のボトルネック

多くの企業は、過去数十年にわたり、Oracle、Siebel、SAP、PeopleSoftなどのERP、CRM、およびサプライチェーン・ベンダーから提供されるアプリケーションを使用して、経理、人事、顧客サービスなど、企業の中核となる業務の自動化を進めてきました。全世界的な投資額は、ソフトウェアだけでも1000億ドルを超えていますが、それでもなお、多くの企業において、アプリケーションのバックログが増加しつつあります。つまり、ビジネスが求めるアプリケーション機能が、ITが提供可能な能力を上回っているわけです。これには大きく3つの理由が考えられます。

1. **業種に特化した機能の不足:** 今日のCRM製品やERP製品スイートは、基本的な要件には十分に対応できていますが、小売業界におけるマルチオーダー・チャネル管理、通信業界におけるプロビジョニング、および金融サービス業界における口座開設など、戦略的なビジネス戦術へのきめ細かな対応には欠けています。これ

は、標準のソリューションを補うために業界のニッチ・ソリューションを引き続き使用するか、アプリケーションのカスタム開発が必要になることを意味します。これによりITサービスに対する需要は増大します。

2. **複雑なカスタム統合:** 市販の業種別アプリケーションの数は増えていますが、これら複数のアプリケーションを統合するためには、依然として、コストのかかる開発作業を顧客側で実施する必要があります。製品ライン、ビジネス・ユニット、または地域ごとに異なるシステムを使用している場合、統合作業はさらに複雑なものとなります。さらに、アプリケーションに変更が加えられるたびに、統合の再構築が必要となるため、ITの生産性が低下します。
3. **プロセス全体における調整能力の限界:** 多くのERPおよびCRMプログラムは、1つのプロセス内に情報を収集するという意味では優れたプログラムですが、例外処理や、複数の地域間の注文の調整など、複数のステップにまたがる作業については、ほとんど対応できません。これは、重要なビジネス調整作業の多くが、従来のCRMやERPアプリケーションの外部で、カスタム開発されたミドルウェア・ソリューションとして実行されることを意味します。これによっても、複雑性とコストが増加します。

前述の3つの理由はすべて、適応力の必要性に帰結します。適応力とは、ビジネスの変化に伴い、ビジネス・ロジック、統合、およびプロセスを変更する能力です。このためには、業務上妥当な時間内にこのような変更を可能にするためのアーキテクチャとサポート構造が必要になります。

ビジネスとITの間のボトルネックを解消するためには、新しいタイプのアプリケーションが必要です。これは、業界特化型であり、共通アプリケーションがパッケージとして統合され、ビジネスの変化に適応可能な最先端のプラットフォームを使用して、アプリケーション・データだけでなく、エンド・ツー・エンドのビジネス・プロセスを管理するアプリケーションを意味します。

### 通信業界における製品のバンドリング

ここでは、オラクルから提供されるソリューションのタイプについて、例を使用して説明します。製品やサービスの提供方法において劇的な変化を経験している業界の1つとして、通信業界があげられます。この業界ではなぜ変化が必要となるのでしょうか。激烈な競争、というのが簡潔な答えです。通信業界は、あらゆる方面での競争に直面しています。従来の固定電話がインターネットと携帯電話に置き換わっただけではありません。高速のインターネット接続と Voice Over IPを使用した市内通話や長距離通話が可能となり、その利用者の数は増え続けています。製品のバンドリングを通じて、消費者がよりシームレスな方法でこれらの製品を管理できるようにすることは、通信企業を他のニッチな競争相手と差別化する大きな要因となります。これらの企業は、携帯電話、固定電話、DSL、および衛星電話を、魅力的な価格設定と単一の請求書で一括して提供する必要があります。また、高速の DSL の追加や電話のアップグレードなどによる提

供内容の変更は、ITシステムのサポート体制が整ったときではなく、競合上の必要が発生したときに実施できる必要があります。

残念ながら、システムの統合は、多くの方が考えるほど簡単な作業ではありません。第一に、多くの大企業と同様、通信企業もまた、さまざまなITインフラを所有しています。地域や製品ラインごとに、別々のシステムを使用して顧客獲得、顧客サービス、フルフィルメント、請求が実施されていることも珍しくはありません。この結果、何十または何百もの個別のシステムを含む複雑な環境が形成されます。この状況は、業界統合によりさらに複雑化します。新たに持ち込まれたシステムやビジネス・プロセスの合理化、一元化、および統合が必要になるのです。

通信企業が複数のシステムを使用して受注処理、請求、顧客サービスを実施しているとしたら、システムの統合は可能でしょうか。この答えは、「可能ではあるが、そのためには長い時間と多大な労苦が必要となる」となります。多くの企業は、統合のためにビジネス・プロセスの定義と文書化に多大な労力を費やした後、さらに特定の顧客の注文に対応した一貫性のある動作を実現するため、何か月もかけて、追加のアプリケーションを1つずつ統合しています。このような作業の間も、基本システム上でビジネスを続行する必要があります。

### ソリューション: オラクルのアプリケーション統合アーキテクチャ

オラクルのアプリケーション統合アーキテクチャは、それぞれのビジネス・プロセス内に統合の基盤を築きます。オラクルのアプリケーション統合アーキテクチャには、業種に特化したエンド・ツー・エンドのビジネス・プロセスやパッケージ化されたインテグレーションなど、複数のアプリケーションにまたがるビジネス・プロセスを作成するために必要なすべてのコンポーネントが含まれています。

- **業界のベスト・プラクティス:** オラクルは、お客様のビジネス・プラクティスの最適化を可能にするため、各業界のベスト・プラクティスをパッケージ化および文書化して提供していく予定です。この中心となるのが、業種別リファレンス・モデル (Industry Reference Models) です。これらのモデルは、業種ごとにベスト・プラクティスのプロセスを提示するとともに、オラクルのアプリケーションがこの枠内でどのように機能するかを説明します。また、これらのプロセスを有効化するための標準のエンタープライズ・ビジネス・オブジェクトおよびエンタープライズ・ビジネス・サービスも含まれています。
- **持続可能な統合:** オラクルは、テクノロジーおよび抽象化を通じて、迅速な導入や、将来的な拡張およびアップグレードが実現できる、持続可能な統合を提供します。また、アプリケーションが新しいバージョンにアップグレードされた後も、確実に有効性が維持されるように統合をサポートします。この結果として実現された統合は、ITの全体像の進化とともに持続していきます。
- **最高クラスの基盤:** オラクルのテクノロジー・スタックは、他のアプリケーション・ベンダーとは異なり、この分野における第一人者であるため、お客様は、現代的なIT部門の運営に必要な強力なテクノロジーを備えたインフラを実現できます。

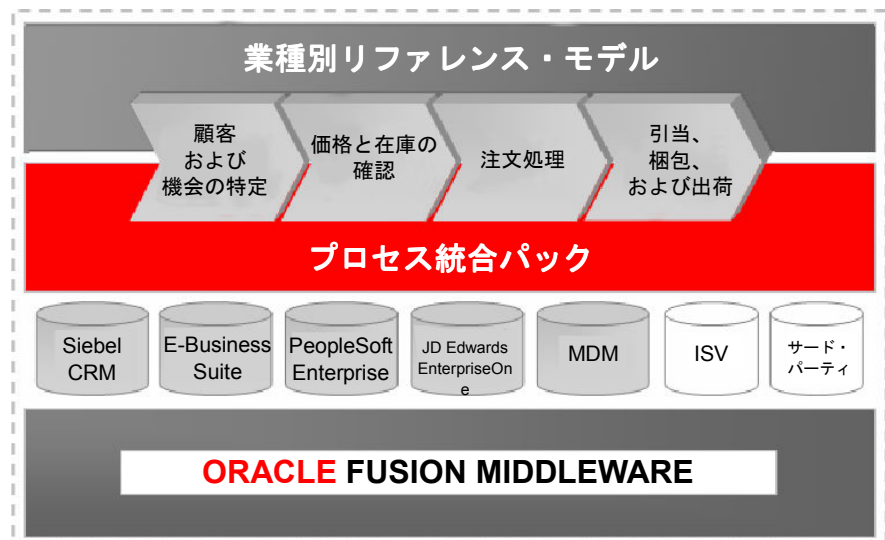


図1: アプリケーション統合アーキテクチャ

### 業界のベスト・プラクティスとしてのプロセス

多くの企業にとって重要な課題となっているのは、複数の部門、ビジネス・ユニットおよび業種にまたがるコミュニケーションを確立し、お客様に一貫性のある価値を提供することです。これらのプロセスの標準化は部分的には完成していますが、ほとんどにおいては、特殊なプロセスやデータを処理するために、詳細な業界知識が必要になります。装置の売り方はビスケットの売り方ともエンタープライズ・ソフトウェアの売り方とも異なるものです。業種に特化した機能が提供されていなければ、企業は何年もかけてソフトウェアやビジネス・プロセスを修正して新しい統合機能を開発しなければならなくなり、それにより、パッケージ・ソリューションの多くの利点が失われることとなります。

オラクルは、基礎となるビジネス・プロセスを構成する、最高クラスの業種別ソリューションを数多く提供しているため、パッケージ化された業種別プロセスを求めるお客様の要求に、迅速に対応できる立場にあります。たとえば、通信業界の場合は、この業界向けに最適化されたSiebelの顧客サービスを、MetaSolvの運営サポート・システム（OSS）およびPortal Softwareの請求ソリューションにリンクすることで、新製品の紹介やフルフィルメントから、継続的な顧客サービスや請求処理に至るまで、一貫した顧客対応を実現できます。これらのアプリケーション（通常は一般的なERPやCRMの守備範囲外にあります）は、業種別に特化した処理を提供することで、人事や経理などの標準的な機能をより効率化します。業種独自のプロセスに関するオラクルの知識と、統合されたCRMおよびERPアプリケーション、最高クラスの中核ソフトウェアを組み合わせることで、オラクルは業界向けに最適化された総合的なアプリケーション・ソリューションを提供します。また近い将来、さまざまなターゲット業種に関して、プロセス重視の統合パッケージ・セットを提供する予定です。

### 業種別リファレンス・モデル

業界のベスト・プラクティスのプロセスの中核となるのは、業種別リファレンス・モデルです。業種別リファレンス・モデルは、その業種の重要なビジネス・プロセスの論理的表現と、そのプロセスを通じて収集および使

用される重要な情報の論理データ・モデルから構成されます。オラクルの業種別リファレンス・モデルでは、各業種プロセスを複数のレベルで定義しています。トップ・レベル（レベル0）では、その業種における重要プロセスを定義し、たとえば通信業界における「受注からアクティベーション」や「顧客サービス」のように、その業種に必要な主要ステップをすべて記述します。オラクルは、お客様、業界の専門家、およびパートナーと協力してトップ・レベルのプロセスを判別した上で、これを提供しています。

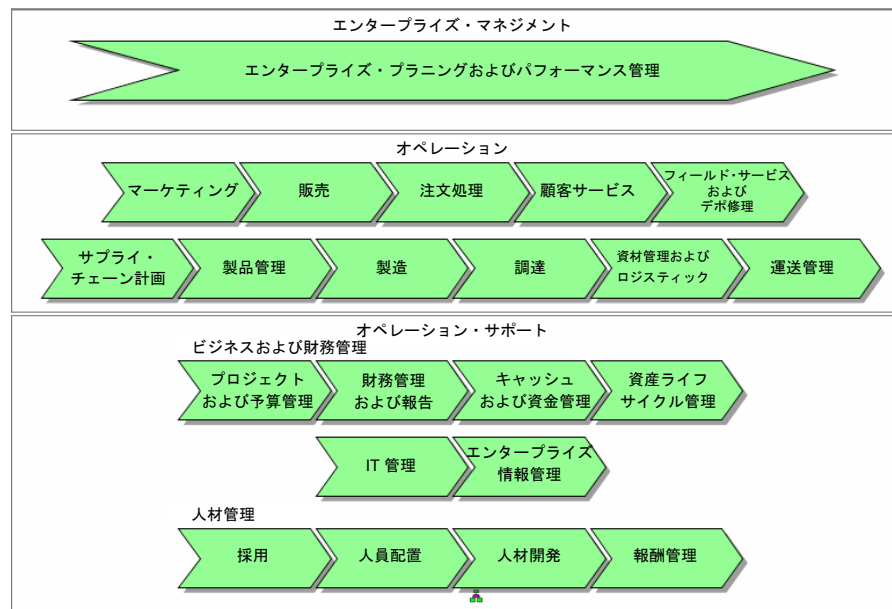


図2: 業種別リファレンス・モデル、レベル0の例

このレベルからレベル1モデルにドリルダウンすることで、ビジネス・プロセスのステップを表現します。たとえば、レベル1モデルでは、レベル0の「注文からアクティブ化」プロセスに必要なすべてのステップが示されます。これらのステップは、注文の受付、サービスの構成などを含めて、複数のステップに分解されます。

さらに、レベル2モデルにドリルダウンすることができます。これらのモデルでは、ビジネス・プロセス内のアクティビティ、およびそれらがどのようにリンクしているかが示されます。この段階では、ステップをきわめて詳細に記述します。「サービスの構成」のステップには、在庫の確認、電話番号の割り当てやIPアドレスの確定などのアクティビティが含まれます。

最後のドリルダウン（レベル3）では、アプリケーションの動作および統合の流れを正確に示すために、アプリケーションのタッチ・ポイントと統合フローが提供されます。

企業は、業種別リファレンス・モデルを使用して、自社の現状を業界のベスト・プラクティスと比較して把握することができます。これにより、文書化プロセス（改善のための最初のステップ）において一歩先んじることができます。また、業種別リファレンス・モデルを使用すれば、社内のどの分野においてベスト・プラクティスによるプロセスの適用を検討すべきかを明らかにすることができます。

## プロセス統合パックを使用した持続可能な統合

IT部門は、長年にわたり統合に取り組んできました。アプリケーションの統合は、困難かつコストを伴い、失敗しやすいものです。統合パッケージを使用すれば、コストの削減は可能ですが、脆弱性は変わりません。オラクルは、プロセス統合パックを通じて持続可能な統合を提供することで、この現状を打開しました。プロセス統合パックは、アプリケーション間の実行時プロセス・フローを提供します。ここに含まれるビジネス・ロジック、ビジネス・プロセス実行言語 (BPEL)、プロセス・フロー、Webサービス、ビジネス・ルールなどを通じて、アプリケーション同士を連携させて、シームレスなプロセスを作成することができます。プロセス統合パックの設計構造、およびエンタープライズ・ビジネス・オブジェクトを使用することで、アップグレード時や新規アプリケーションの追加時にも、統合が損なわれることはありません。また、プロセス統合パックについては、お客様の統合の価値を長期間にわたり維持できるように、保守およびアップグレードを通じてオラクルの全面的なサポートが提供されます。これにより、持続可能な統合が実現されます。

「私の考えでは、BPELは統合の  
世界の未来像です。  
その理由は、アプリケーションを統  
合するだけでなく、そこから  
サービスを作成し、ビジネス・  
プロセスに取り込む方法を提供でき  
れば、価値を飛躍的に  
高めることができるからです」

John Rymer氏  
(Forrester Research社、  
バイスプレジデント)

では、業種別リファレンス・モデルとプロセス統合パックはどのように関係するのでしょうか。業種別リファレンス・モデルのレベル0、1、および2では業務の実施方法が詳しく記述され、レベル3では、アプリケーションの詳細な機能が実際にモデリングされます。また、レベル3では、特定のタスク・フローや、タスクおよび統合ポイントの詳しい分析が記述されます。これが、プロセス統合パック内の動作と直接対応します。つまり、業種別リファレンス・モデルはプロセス統合パックの設計構造を提供しているのです。

## エンタープライズ・ビジネス・オブジェクトによる持続可能性

エンタープライズ・ビジネス・オブジェクトおよびエンタープライズ・ビジネス・サービスは、統合の持続性を実現する上で、アプリケーション統合アーキテクチャの最重要部分を構成しています。エンタープライズ・ビジネス・オブジェクト (EBO) は、顧客、注文、請求書などのビジネス・オブジェクトの一般的表現です。プロセス統合パックでは、エンタープライズ・ビジネス・オブジェクトを使用して、サービスの内容を特定しています。オラクルでは、これらのオブジェクトの作成に関して厳密な手法を採用しています。

この手法の最初のステップでは、Open Application GroupやUNIFACTなどの標準、およびTeleManagement ForumのShared Information/Data Modelなどの業界標準を確認することができます。これらは、ビジネス・オブジェクトの定義に関する標準化機関です。次のステップとして、この定義がオラクルのアプリケーションと比較されます。アプリケーションはお客様の要求に合わせて有機的に成長するものであり、基本標準にまだ採用されていない概念が必要であったり、サポートされていたりすることが考えられるため、このステップは必須です。その後、すべてのアプリケーション・チーム (Siebel CRM、JD Edwards EnterpriseOne、PeopleSoft Enterprise、Oracle Transportation Management、Oracle Retailなど) から報告が提供されます。

最後に、調停委員会が報告を評価し、最終レビューのためにドキュメントを回覧します。このようなプロセスを通じて、EBOは開始時点から、明確に定義された強力なものとなります。

「オラクルには、1994年にオラクルの協力によって開発された私たちの標準も含めて、オープン標準をサポートしてきた長い歴史があります。標準によって、お客様のコストの節約、リスクの削減、および投資の保護が可能になります。オラクルのアプリケーション統合アーキテクチャは標準を採用しているため、投資の保護に役立ちます」

Open Applications Group社CEO,  
David Connolly氏.

エンタープライズ・ビジネス・オブジェクトおよびエンタープライズ・ビジネス・サービス（EBS）は、持続可能な基盤を提供します（EBSは、EBOをWebサービスとして実現したものです）。EBOの内容を総称的に表現し、すべてのアプリケーションをEBO構造にマッピングすることで、次の3点において持続可能性が提供されます。

最初に、マッピングの数が減少します。お客様は、共通の定義にマッピングするだけでよく、関係するすべてのアプリケーションにマッピングする必要はありません。マッピング数の減少により、時間が節約され、保守の回数が削減されます。これにより、保守に必要な時間が大幅に減少するため、IT部門は、より多くの時間を新しいビジネス・プロジェクトに割り当てることができます。

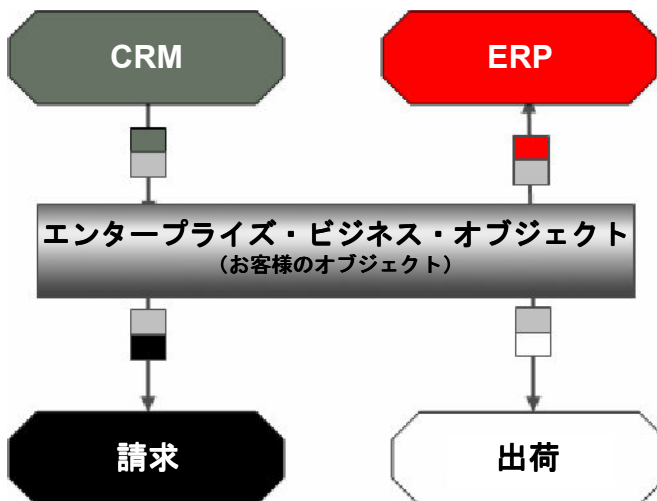


図3: エンタープライズ・ビジネス・オブジェクトによるアプリケーションの接続

2番目に、もう1つの重要な観点として、異なるアプリケーションを接続する能力をあげることができます。アプリケーション機能の要求元は裏側に隔絶されているため、アプリケーションを簡単に切り替えることができるだけでなく、必要に応じて、複数のシステムからその機能を提供することも可能です。これは、柔軟性の向上を意味します。お客様はコード全体を書き直すことなく、統合を変更することができます。プロセス統合パックの価値は、Oracle Applicationsを使用しなくても実現できます。

最後に、EBOにより、アップグレードの際もこれまでの投資を保護できます。EBOとマッピングしているため、アプリケーションのアップグレード後も、マッピングを使用して新規アプリケーションを既存の統合に接続できます。このようにして、アプリケーションのアップグレード後も統合は持続されます。

### Oracle Applicationsとの接続

前述のように、エンタープライズ・ビジネス・オブジェクトおよびエンタープライズ・ビジネス・サービスは、Oracle Applicationsから独立しており、さまざまなパッケージ・アプリケーションやカスタム開発のアプリケーションで使用できるとともに、Oracle Applicationsとの接続も確立されています。Oracle Applicationsとエンタープライズ・ビジネス・サービスとの接続は、Oracle Applicationsからの直接のWebサービスとして提供されます。こ

これらのWebサービスは、各アプリケーションのレガシーAPIではなく、サポート対象のビジネス・アクティビティに基づいて提供されます。

従来のWebサービスの場合は、APIを利用し、Webサービスのラッパーが追加されるのに対して、ここでは、適切なサイズのサービスにより、たとえば「顧客の作成」など、Webサービスとして自然なレベルで、サービスにアクセス可能な機能が提供されます。これらの精度はそれほど高いものではないため、要求元のアプリケーションは、複数の呼び出しをつなぎ合わせてAPIを作成する必要があります。レガシーAPIの場合、「顧客の作成」などのアクションでは、顧客が存在するかどうかの確認、顧客および関連する（インストール・ベースなど）レコードの追加または更新、および相互参照情報の追加などを行うために、一連の細かい呼び出しが必要になる可能性があります。基礎となるWebサービスのサイズを適切なものにするので、オラクルは、その結果得られるビジネス・プロセスが、各アプリケーション用に最適化された効率的なものとなるようにサポートしています。

ネイティブに提供されている場合や、アダプタを使用する場合にかかわらず、これらのWebサービスは変換され、Application Business Connector (ABC) サービス内のエンタープライズ・ビジネス・サービスに接続されます。ABCは、Oracle Applicationsとのマッピングおよび相互参照を提供するサービスであり、Oracle Fusion Middleware内で実行されます。

適切なサイズで提供されるこれらのサービスは、プロセス統合パックで使用されるだけではありません。各アプリケーションのサービスはすべてのお客様が使用できるものであり、カスタム開発の統合にも使用できます。また、サービスを拡張して、ビジネス固有のロジックなどの処理を追加することもできます。これらのサービスは、オラクルの全アプリケーション・サービスのリポジトリであるビジネス・サービス・リポジトリから検索できます。

### 適応性の組み込み

業界特化型のビジネス・プロセスおよびパッケージ化された統合機能を使用して、開発時間の短縮や保守コストの削減を図ることは、ビジネスとITの間のボトルネックの解消に役立ちます。しかし、当然すべてのお客様が、提供されているオブジェクトのコア・バージョンを使用できるわけではありません。このため、オラクルは業種別リファレンス・モデルおよびプロセス統合パックの設計にあたり、柔軟性を重視しています。お客様はプロセスを変更し、エンタープライズ・ビジネス・オブジェクトにフィールドを追加したり、業種別リファレンス・モデルをカスタマイズすることができます。このような変更を持続可能な方法で行うために、オラクルは、メソドロジおよび拡張用フレームワークも提供しています。これにより、将来のアップグレードやサポートに影響を与えることなく、お客様独自の環境に合わせてプロセスを最適化できます。

このアーキテクチャにより、最小限のコーディング作業を行うだけで拡張が可能になります。動作の変更をコーディングするかわりに、構成を調整することで動作を変更できます。これは、宣言型の開発方法であり、コードの記述ではなく、オプションや構成を中心とした方法です。プロセス統合パックの動作は構成によって制御されるため、複雑なプログラミングではなく、データ値を変更することで、注文のルーティングなどの動作を変

更できます。この方法により、カスタマイズの要件にもわずかな作業量で対応できるため、短時間で価値を実現できます。また、エンタープライズ・ビジネス・オブジェクト内のデータ要素は、業種やお客様の要件に合わせて拡張できます。

さらには、最小限のコーディングで拡張が可能であるため、アップグレード作業も容易になります。たとえば、コーディングのかわりに構成が使用されるため、変換ツールを作成して、これらの構成内容を新バージョンに移行することができます。これは、統合をアップグレードする際に、拡張部分を同時に移行できることを意味します。

### 最高クラスの基盤

アプリケーション統合アーキテクチャを提供することにより、オラクルは、独自の立場を確立しました。オラクルは、業界トップのアプリケーションとミドルウェアの両方を提供する唯一のベンダーです。アプリケーション統合アーキテクチャは、それぞれの独自の能力を活用して、複数のアプリケーションにまたがるビジネス・プロセスを実現します。

Oracle Fusion Middlewareは、SOA、ポータル、プロセス管理、アプリケーション・インフラ、アイデンティティ管理、コンテンツ管理、およびビジネス・インテリジェンスを含む、世界でも最も急成長しているミドルウェア・ソリューションのファミリーです。

この包括的かつ十分に統合された製品ファミリーは、アプリケーション統合アーキテクチャの開発、導入、管理を完全にサポートします。また、ビジネスにとって最も重要な要件は業務の続行であるため、Oracle Fusion Middlewareの最高品質のコア・テクノロジーにより、計画的であれ計画外であれ、業務の中断を最小限に抑えて、プロセス統合パックの実行が継続可能になります。

### 将来のための基盤

アプリケーション統合アーキテクチャは、現時点において価値を生み出すプラットフォームというだけではありません。これは、将来に向けての道筋をも提供するものです。次の特徴を持つアプリケーション統合アーキテクチャの導入により、お客様はFusion Applicationsに備えることができます。

1. **プロセスおよびモデル:** モデルおよび業種別プロセスは、Fusion Applicationsの基盤として機能します。
2. **アーキテクチャ:** アプリケーション統合アーキテクチャでは、Fusion Applicationsを構成する主要な要素が使用されています。このアーキテクチャに投資することで、Fusion Applicationから引き続き価値を引き出すことができます。
3. **Fusion Applicationsとのアプリケーション互換性:** オラクルは、Fusion Applicationsのリリースに伴い、アプリケーション統合アーキテクチャへのFusion Applicationモジュールのプラグインを保証する予定です。これにより、お客様のFusionへのアップグレードおよび投資の保護が可能になります。Fusion Applicationsの採

Fusion Middlewareは、  
次の項目においてGartner社の  
Magic Quadrantで  
トップにランキングされました

---

アプリケーション・  
プラットフォーム・スイート  
開発ツール  
アプリケーション・サーバー  
Webサービス・プラットフォーム  
エンタープライズ・ポータル  
ビジネス・インテグレーション  
アイデンティティ管理  
Webサービス管理  
ETLデータ統合。

用後も、アプリケーション統合アーキテクチャへの投資は引き続き保護されます。

## 次のステップ

このホワイトペーパーでは、オラクルのアプリケーション統合アーキテクチャの内容と、その仕組みについて説明しました。業種別リファレンス・モデルからエンタープライズ・ビジネス・オブジェクトに至るまで、その価値は明白です。お客様は業種別リファレンス・モデルを使用して、業界のベスト・プラクティスのプロセスに合わせて自社のビジネスを最適化できます。エンタープライズ・ビジネス・オブジェクトおよびエンタープライズ・ビジネス・サービスにより、保守コストを削減できるだけでなく、事前構築済みの統合に他のアプリケーションを追加できるため、持続可能性を実現できます。最後に、アプリケーション統合アーキテクチャが、Fusion Applicationsへの移行の開始点となることについても説明しました。

では、今日、価値を実現するためには何ができるのでしょうか。

1. 最初のステップは、アプリケーション統合アーキテクチャについて詳しく知ることです。まず<http://www.oracle.com>を参照してください。
2. 入手可能であれば、業種別リファレンス・モデルを使用して、ビジネス・プロセスをモデリングします。
3. プロセス統合パックを導入します。これにより、現行のアプリケーション間でプロセスを自動化し、ミッション・クリティカルなビジネス・プロセスをシームレスに実現できます。
4. アプリケーション統合アーキテクチャを使用して、カスタム統合を開発して価値を拡張します。

# ORACLE

オラクルのアプリケーション統合アーキテクチャ  
2007年4月  
原著者: Michael Seymour

Oracle Corporation  
World Headquarters  
500 Oracle Parkway  
Redwood Shores, CA 94065  
U.S.A.

世界共通窓口:  
電話: +1.650.506.7000  
FAX: +1.650.506.7200  
oracle.com

Copyright © 2007, Oracle. All rights reserved.

この文書はあくまでも参考資料であり、掲載されている情報は予告なしに変更されることがあります。

オラクル社は、この文書の無謬性を保証しません。また、この文書は、口頭で表明されているか、または法律で暗黙的に表明されているかどうかに関係なく、商品性または特定の目的に対する適合性に関する暗黙の保証や条件を含む一切の保証または条件に制約されません。オラクル社は、この文書の内容に関していかなる保証もいたしません。また、直接、間接を問わず、この文書により契約上の義務が発生することはいっさいありません。オラクル社の書面による事前の許可なしに、この文書を、形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転載することはできません。

Oracleは、米国Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。